

## 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）児発

公表：平成 31 年 1 月 19 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」袋井校 保護者等数（児童数） 10 回収数 8 割合 80 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5	2		1	大きな部屋でやりたがることもあり小さい方の部屋は狭いと感じる	人員やスペース的に余裕のある場合は、支援する部屋を選択できるようにしている
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	4	2		2	職員数については適切だと思うが、専門性についてはわからない どのような資格を持った指導員が何名いるのかわからない	職員の名札にはそれぞれのもっている資格（教員免許、保育士 資格、その他の福祉の資格等）を記載している
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7			1		建物の構造上、出入口のバリアフリー化はされていないが、室内は配慮している
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8					常に清潔に保つようになっている
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	6	1		1	客観的に分析されているのか…わかりません	支援計画を作成する際には必ず保護者に見てもらい、修正の必要がある場合には修正を加えたくうえで、お渡ししている
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4	1		3		上記同様、必ず保護者の同意を得たくうえで支援内容を設定している
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6	1		1		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6	2			「今日、これをやったらこういう所が苦手みたいなのでもたプログラムに入れてみ	指導員の支援の内容に関しては、必ず職員間での申し送りをを行い、全員が共通して児の理解を図る

							ます」などよく考えて いただいていると思う	ようにし、プログラムの工夫 をしている
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障 害のない子どもと活動する機会があるか		1	2	5	活動に参加してい ないため不明	個別療育のため、こういっ た機会はこれまでなかつ た、今後もないと思う
保 護 者 へ の 説 明 等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明が なされたか	7	1				利用開始にあたり、必ず 説明をし、署名をいただ いたうえで、利用契約を行っ ている
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基 づく作成された「児童発達支援計画」を示しなが ら、支援内容の説明がなされたか	6	1		1		個別支援計画の作成の 際、更新の際、必ず説明 をし、同意を得たうえで作 成し、実施している
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・ト レーニング等）が行われているか	3	3	1	1	教えてくれる職員と そうでない職員がい る	ペアレントトレーニングは職 員に知識がないので実践 はしていないが、相談にの ることは行っている
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子ども の発達の状況や課題について共通理解ができている か	5	2	1		担当の指導員により バラつきがあるよう に思う 質問をすると大変 丁寧に対応してもら っている 立ち話だけでなく、 面談や相談などの 時間もあれば嬉しい	契約の際に、事業所内 相談を行えることを伝えて いるが、利用している保護 者は一割程度なので、今 後も伝えていきたい また、保護者会の機会を 設けて、職員だけでなく、 他の保護者と話す機会を 用意している
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する 助言等の支援が行われているか	2	3	2	1	聞けば答えてくれる 面談などは長期に ならないとないのか もしれないが、アドバ イスなどは都度して もらいわかりやすい	職員の中でも、子育て経 験のある者が経験を伝え たり、日常的な児の様子 から助言をしたりするよう に努めている
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援されている か	4	1	2		そもそも保護者が 話すことがない	保護者会を半年に1回 程度案内しているが、参 加されるかたは2割程度 で、ほかのかたとはほとんど 話したことがないかたもあ るので、今後も引き続きで きるだけ多くの保護者に 参加していただくように声 は掛けていきたい
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対 応の体制が整備されているとともに、子どもや保護 者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	5	1		1		指導員が対応できない場 合は児発管が対応するな ど、相談や申入れに対 し、そのまま放置することの

							ないように注意を払っている
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6	1			送迎の際に、手の空いている職員は子どもや保護者に対し、声を掛けたり、対話をしたりしている
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	6	1			校舎内に掲示する、保護者へ配布するなど、行事の案内や事業所の活動内容などではできるだけ周知してもらうようにし、ブログも作成している
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	6	1			
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	4	1		2	校舎内に掲示する、場合によっては保護者に配布するなどして周知している マニュアルを作成、研修等している
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	1		3	防災訓練は毎月行い、その状況も掲示し啓発している
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	7				楽しみにしてもらえよう、今後も様々な工夫を全職員で考えていきたい
	㉓	事業所の支援に満足しているか	7				いつも本当にありがとうございます これまで以上に満足度が上がるよう、職員一人一人も自覚し、支援していきたい

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 　　こどもサポート教室「きらり」袋井校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		個別支援のため仕切りを使用し、個室化を図っている 気の散った際に少し動き回れる程度の広さを確保している	幼児が少ないため広さとしては問題ない 幼児同士が交流できる機会も今後積極的に行っていきたい
	②	職員の配置数は適切である	5			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		視覚刺激が少なくなるよう、掲示物はできるだけ控えるようにしている	事業所の出入りに段差がある
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		清潔な室内を保つために毎朝清掃を行っている	年長児が多いのでちょうどいい高さの椅子や机を使って支援したいが数が不足している 牛乳パックや踏み台などを活用してはいるが姿勢保持のために高さの調節ができるきちんとした机や椅子がほしい
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		保護者の要望を取り入れた支援を行っている	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		未実施のため今後行っていきたい
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2	幼児向けの研修に参加できていない職員が多い	幼児向けの事例検討会や幼保の職員が参加するような研修会に参加できるようにしていきたい
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		ツールを利用したうえで、こどもの発達段階を理解し、支援や課	指導員が「ねらい」「育てる力」をより理解できるようにしていきたい

支援の提供					題を考えるようにしている	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		太田ステージ、NCプログラム等を活用している	活用方法が完全には理解できていないところもあるため、ツールの活用法を学ぶ機会を設けていきたい
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	個別支援のため毎回必ずチームで行っているわけではないが、申し送りの機会を通して、共通理解するように努めている	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	2	3	基本は個別支援を基本に考えているが、年に数回、集団活動を取り入れられるような支援計画を作成している	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2	毎朝の申し送りの中で共通理解することが多い	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	4	終了後に時間を設けることはできないので、翌朝、申し送りの場で共有する	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		個別ファイルを作成し、支援記録として指導員の記録だけでなく、母の感想や記録も同時に残し、よりこどもの様子がわかり、支援の改善がしやすくなっている	

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		個別支援計画の更新の際には必ず保護者からの聞き取り、職員間での見直しを行い、作成した計画を保護者に見てもらってから、加除修正し、正式な支援計画を作成している	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		今年度幼児に関しては、一度も担当者会議を行っていない。幼児の保護者が必要性を感じていない
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	2		当市の関係機関とは連携をとっているが利用児が通常通っている園との連携は取れていない
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在該当児がいない
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在該当児がいない
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				今年度は行っていない
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		今年度は、就学した利用児の小学校で関係機関連携会議(担当者会議)を行った	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		市内の他児童発達支援センターとの連携は行っている(見学も随時依頼する)	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		5		

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		自立支援協議会の子ども部会に参加している	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		保護者の支援見学や、送迎時の相談に応じることで子どもの状況を伝え合う機会は設けている	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		5		ペアトレの研修を受ける機会がなかったことで、保護者に対してのペアトレの支援は未実施である
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に必ず丁寧に説明を行っている	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		作成した計画には必ず目を通してもらい、修正機能箇所があれば修正のうえ、再度計画を作成するなどして同意を得たうえで計画に沿った内容を実施している	
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	2	対応は行うが定期的ではない	不安を感じている保護者に対しての対応はもっと回数や時間を掛けていきたいと考える
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		保護者会への参加を募るが参加者が少ない	
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	可能な限り児発管が迅速に対応するように心がけている	
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	保護者に配布するようにしているが、校舎内に掲示することもある	空き状況を知らせるものや行事に関する掲示は、タイムリーに行うことができるようにしていきたい
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		個別支援の事業所としては、地域との交流は難しいが、地域住民に対し、必ず挨拶をするようにしている

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	基本情報シートへは記載してもらい把握している	食物の提供を行っていないので該当しない
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	4		今年度中に虐待に関する事業所内研修を行う予定である
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2	契約の際に伝えている	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。